



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年8月8日

上場会社名 株式会社ヨコオ 上場取引所 東
 コード番号 6800 URL <https://www.yokowo.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役兼執行役員社長 (氏名) 徳間 孝之
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 SC1本部長 (氏名) 多賀谷 敏久 (TEL) 03-3916-3111
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第1四半期の連結業績(2024年4月1日～2024年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	20,877	14.8	1,056	—	2,017	74.5	1,728	108.7
2024年3月期第1四半期	18,181	△3.9	△258	—	1,156	△62.2	828	△59.2

(注) 包括利益 2025年3月期第1四半期 3,305百万円(66.5%) 2024年3月期第1四半期 1,985百万円(△45.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	74.17	—
2024年3月期第1四半期	35.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	80,397	53,176	66.0
2024年3月期	76,408	50,384	65.8

(参考) 自己資本 2025年3月期第1四半期 53,090百万円 2024年3月期 50,303百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	22.00	—	22.00	44.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	24.00	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	40,000	8.7	1,800	—	1,150	△32.4	750	△21.8	32.17
通期	80,000	4.0	4,100	153.4	3,000	△19.1	2,000	32.3	85.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期1Q	23,849,878株	2024年3月期	23,849,878株
2025年3月期1Q	539,068株	2024年3月期	539,008株
2025年3月期1Q	23,310,855株	2024年3月期1Q	23,310,950株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の本資料に記載されている業績見通し等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における売上高は、VCCS及びCTC並びにFC・MDセグメントが前年同期比で増収となったことなどにより、20,877百万円(前年同期比+14.8%)となりました。営業損益につきましては、VCCSセグメントの損益が大幅に改善して安定化したことに加え、CTC及びFC・MDの両セグメントが黒字となったことなどにより、1,056百万円の利益(前年同期は258百万円の損失)となりました。経常損益につきましては、営業増益に加え、為替差益967百万円を計上したことなどにより、2,017百万円の利益(前年同期比+74.5%)となりました。親会社株主に帰属する四半期純損益につきましては、経常増益に加え、繰延税金資産の回収可能性が向上したことに伴う税金負担率の低下などにより、1,728百万円の利益(前年同期比+108.7%)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

① VCCS(主要製品：車載用アンテナ)

当セグメントの主要市場である自動車市場は、米国を中心に電気自動車(EV)の需要減とハイブリット車(HV)の需要増が同時に進む中、半導体・部品供給停滞の正常化などにより、販売は緩やかな回復傾向にあります。地域別の販売台数は、中国市場では増加したものの、米国市場では横ばいとなり、日本市場では微減となりました。

このような状況の中、主力製品であるシャークフィンアンテナ/GPSアンテナをはじめとする自動車メーカー向けアンテナの販売は、日系自動車メーカーの中国市場向けが不振となったものの、他地域向けが堅調に推移したことに加え円安効果などにより、前年同期比で増加しました。

この結果、当セグメントの売上高は14,433百万円(前年同期比+12.9%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、現地通貨高に伴う中国/ベトナム/フィリピン生産拠点における労務費などの増加があったものの、安定受注による生産効率向上や増収に伴う増益などにより、653百万円の利益(前年同期比+321.8%)となりました。

② CTC(主要製品：半導体検査用ソケット及びプローブカード)

当セグメントの主要市場である半導体検査市場は、PC/スマートフォン向けが依然として低調に推移し、産業機械/自動車向けの伸びが鈍化しているものの、生成AI関連の需要の高まりにより、全体としては緩やかな回復が続いております。

このような状況の中、当社グループの主力製品である半導体後工程検査用治具の販売は、ロジック半導体検査用ソケットなどの受注が減少したものの、生成AI関連の検査需要取り込みなどにより、前年同期を上回りました。半導体前工程検査用治具の販売は、周辺機器を含めてワンストップでソリューションを提供するターンキービジネスが若干増加したものの、高周波電子部品検査用MEMSプローブカード(YPX)の販売が伸び悩み、前年同期を下回りました。

この結果、当セグメントの売上高は3,606百万円(前年同期比+5.6%)と、前年同期比で増収となりました。セグメント損益につきましては、原材料価格下落による原価低減や製品ミックスの良化などにより、378百万円の利益(前年同期は131百万円の損失)となりました。

③ FC(主要製品：電子機器用微細コネクタ)・MD(主要製品：医療機器用部品/ユニット)

当セグメントの主要市場である携帯通信端末市場は、ウェアラブル端末の多様化・高機能化により今後の成長が期待されるほか、スマートフォンの出荷台数は前年同期比で増加しました。POS端末市場についても、物流/製造を始めとする幅広い業界において、情報管理による業務効率化実現の観点から着実な成長が見込まれ、需要は堅調に推移しております。

このような状況の中、微細スプリングコネクタを中核製品とするFC事業におきましては、顧客の生産調整が解消されたことなどによりPOS端末向けの受注が回復し、ワイヤレスイヤホンなどウェアラブル端末向けの販売も増加したことなどにより、売上高は前期を上回りました。

MD事業につきましては、主要顧客である国内大手医療機器メーカー向けのカテーテル用部品/ユニット品の販売が増加したことに加え、当社が製造パートナーとして参画しているベンチャーエコシステム向けの販売が堅調に推移したことなどにより、売上高は前期を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は2,749百万円(前年同期比+46.8%)と、前年同期比で大幅な増収となりました。セグメント損益につきましては、FC事業における増収に伴う増益などにより、225百万円の利益(前年同期は109百万円の損失)となりました。

④ インキュベーションセンター(主要製品：MaaS/IoT向けアンテナ及びソリューション)

当社は、MaaS/IoTなどの新規成長市場や、高速大容量通信に向けた光通信市場に対し、新たなビジネス創出・ビジネスモデル革新を目指して、本格的な事業展開に取り組んでまいりました。前第1四半期連結会計期間の組織変更に伴い、これら新たな事業分野の開拓を既存事業部から切り離し、プラットフォーム事業と先端デバイス事業で構成されるインキュベーションセンターを報告セグメントとして区分しております。当セグメントの主要市場であるMaaS/IoT市場は、カーシェアリングなどモビリティの進展、あらゆるものがインターネットにつながるIoTの普及に伴い、順調に成長するものとみられております。

このような状況の中、プラットフォーム事業におきましては、IoT向けのスマートアンテナ技術を活用したMIMOアンテナや、MaaS/レンタカー向け車載鍵管理ソリューションの拡販を進めました。

当セグメントに含めております先端デバイス事業につきましては、光通信市場向けに光電変換デバイス技術を活用した光コネクタの量産化に向けた体制構築を推進いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は87百万円(前年同期比△21.1%)と、前年同期比で減少しました。セグメント損益につきましては、展開初期の新規事業が中心の当セグメントにおける売上高は小規模なものとなっており、投資が先行している段階にあることから、205百万円の損失(前年同期は180百万円の損失)となりました。

(事業セグメント別連結売上高)

(単位：百万円、%)

	前第1四半期 自 2023年4月 至 2023年6月	前四半期 自 2024年1月 至 2024年3月	当第1四半期 自 2024年4月 至 2024年6月	前年同期比	前四半期比
	売上高	売上高	売上高	増減率	増減率
VCCS	12,779	14,022	14,433	+12.9	+2.9
CTC	3,415	3,403	3,606	+5.6	+6.0
FC・MD	1,873	2,314	2,749	+46.8	+18.8
インキュベーション センター	110	49	87	△21.1	+75.9
その他	2	1	1	△62.1	△32.3
合計	18,181	19,791	20,877	+14.8	+5.5

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産は、現金及び預金増加2,395百万円、売上債権増加1,180百万円、無形固定資産増加341百万円などにより、80,397百万円(前連結会計年度末比3,988百万円の増加)となりました。現金及び預金の増加は、円安に伴う円貨換算額増加などによるものです。また、無形固定資産の増加は、基幹系情報システムの環境整備や追加導入などによるものです。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債は、賞与引当金減少286百万円がありましたが、仕入債務増加296百万円、その他流動負債に含まれる賞与などの未払金増加937百万円などにより、27,220百万円(前連結会計年度末比1,196百万円の増加)となりました。仕入債務の増加は、主にCTCセグメントにおける受注見通しに基づく部材等の仕入増加によるものです。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、為替換算調整勘定増加1,510百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益1,728百万円の計上、配当金の支払512百万円などにより、53,176百万円(前連結会計年度末比2,792百万円の増加)となりました。

(自己資本比率)

当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率は66.0%(前連結会計年度末比+0.2ポイント)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績見通しにつきましては、予想の前提となる条件を次のとおり想定しております。

- ・当社の主要市場である自動車市場につきましては、一部顧客の生産調整を見込み、今年度中は継続するものと想定しております。
- ・半導体検査市場につきましては、2023年3月期下期以降の半導体市場の落ち込みに底打ち感が出てきたことに加えて、生成AI関連の半導体検査需要が引き続き拡大するものと想定しております。
- ・携帯通信端末市場につきましては、POS端末など電子機器端末向けの需要が、過剰在庫の解消に伴い緩やかに回復するものと想定しております。
- ・先端医療機器市場につきましては、カテーテル等を用いた低侵襲医療への需要が順調に伸長するものと想定

しております。

- ・MaaS/ IoT市場につきましては、モビリティの進展やIoTの普及に伴い、順調に成長するものと想定しております。
- ・業績予想の前提となる為替レートを、本年8月以降9月末までを1米ドル=145円(前回予想時と同じ)とし、本年10月以降当期末までを1米ドル=140円(前回予想時は1米ドル=145円)としております。

このような前提のもと、第2四半期連結累計期間(上期)と通期の売上高及び各利益は次のとおり見込み、下表のとおり修正いたします。

① 第2四半期連結累計期間(上期)

売上高につきましては、当第1四半期連結累計期間の実績及び直近の受注見通しを踏まえ、下表のとおりセグメント別売上高の内訳を修正いたします。

営業利益につきましては、VCCSセグメントにおける一部顧客の生産調整の影響による減益が見込まれる一方、CTCセグメントにおける製品ミックス良化による増益を見込み、下表のとおりセグメント別利益の内訳を修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、想定為替レート1米ドル=145円の下、為替差損650百万円を見込み、下表のとおり修正いたします。

② 通期

売上高につきましては、想定為替レートを1米ドル=140円(前回予想時は1米ドル=145円)と円高方向に見直したことに伴う減収影響及び各セグメントの受注見通しを踏まえ、下表のとおり修正いたします。

営業利益につきましては、VCCSセグメントにおける一部顧客の生産調整の影響による減益、CTCセグメントの下期における国内生産比率上昇による利益率鈍化、CTC及びFC・MDの両セグメントにおける想定為替レート見直しによる減収に伴う減益が見込まれることから、下表のとおり修正いたします。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、想定為替レート1米ドル=140円の下、為替差損1,100百万円を見込み、下表のとおり修正いたします。

第2四半期連結累計期間(2024年4月1日～2024年9月30日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2024年5月14日公表)	修正予想	増 減	増 減 率
売 上 高	40,000	40,000	—	—
VCCS	27,700	27,700	—	—
CTC	7,500	7,200	△300	△4.0
FC・MD	4,650	4,950	+300	+6.5
インキュベーション センター	150	150	—	—
その他・調整額	—	—	—	—
営 業 利 益	1,800	1,800	—	—
VCCS	1,700	1,300	△400	△23.5
CTC	250	650	+400	+160.0
FC・MD	300	300	—	—
インキュベーション センター	△450	△450	—	—
その他・調整額	—	—	—	—
経 常 利 益	1,000	1,150	+150	+15.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	650	750	+100	+15.4

通期(2024年4月1日～2025年3月31日)

(単位：百万円、%)

	前回予想 (2024年5月14日公表)	修正予想	増減	増減率
売上高	81,150	80,000	△1,150	△1.4
VCCS	55,650	55,100	△550	△1.0
CTC	15,500	14,800	△700	△4.5
FC・MD	9,650	9,800	+150	+1.6
インキュベーション センター	350	300	△50	△14.3
その他・調整額	—	—	—	—
営業利益	4,550	4,100	△450	△9.9
VCCS	3,450	3,050	△400	△11.6
CTC	1,200	1,200	—	—
FC・MD	700	650	△50	△7.1
インキュベーション センター	△800	△800	—	—
その他・調整額	—	—	—	—
経常利益	3,750	3,000	△750	△20.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,500	2,000	△500	△20.0

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,702	21,098
受取手形及び売掛金	13,129	14,309
商品及び製品	8,445	7,936
仕掛品	470	433
原材料及び貯蔵品	5,860	5,936
その他	2,563	2,827
貸倒引当金	△3	△3
流動資産合計	49,169	52,538
固定資産		
有形固定資産	19,754	19,849
無形固定資産	1,642	1,984
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	1,114	1,136
その他	4,727	4,888
投資その他の資産合計	5,841	6,024
固定資産合計	27,238	27,858
資産合計	76,408	80,397
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,310	6,606
短期借入金	6,158	6,216
1年内返済予定の長期借入金	1,600	1,600
未払法人税等	518	637
賞与引当金	904	617
その他	4,134	5,184
流動負債合計	19,625	20,862
固定負債		
長期借入金	4,500	4,500
退職給付に係る負債	547	572
その他	1,350	1,284
固定負債合計	6,398	6,357
負債合計	26,023	27,220
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,819	7,819
資本剰余金	7,804	7,804
利益剰余金	28,418	29,634
自己株式	△635	△635
株主資本合計	43,407	44,623
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,084	1,154
為替換算調整勘定	5,463	6,974
退職給付に係る調整累計額	348	337
その他の包括利益累計額合計	6,896	8,467
非支配株主持分	80	86
純資産合計	50,384	53,176
負債純資産合計	76,408	80,397

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	18,181	20,877
売上原価	15,916	17,090
売上総利益	2,265	3,787
販売費及び一般管理費	2,523	2,730
営業利益又は営業損失(△)	△258	1,056
営業外収益		
受取利息	9	21
受取配当金	32	36
為替差益	1,446	967
その他	29	26
営業外収益合計	1,517	1,052
営業外費用		
支払利息	62	49
持分法による投資損失	17	26
その他	21	15
営業外費用合計	102	91
経常利益	1,156	2,017
特別利益		
固定資産売却益	2	1
特別利益合計	2	1
特別損失		
固定資産除却損	19	10
固定資産売却損	0	3
特別損失合計	19	14
税金等調整前四半期純利益	1,139	2,004
法人税、住民税及び事業税	264	323
法人税等調整額	51	△49
法人税等合計	315	274
四半期純利益	823	1,729
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△4	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	828	1,728

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
四半期純利益	823	1,729
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	145	70
為替換算調整勘定	1,022	1,516
退職給付に係る調整額	△6	△10
その他の包括利益合計	1,161	1,575
四半期包括利益	1,985	3,305
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,983	3,299
非支配株主に係る四半期包括利益	1	6

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	調整額 (注)3	合計
	VCCS	CTC	FC・MD	インキュ ベーション センター	計			
売上高								
日本	3,827	368	867	110	5,174	2	—	5,176
欧米	6,072	880	228	—	7,181	—	—	7,181
アジア	2,879	2,166	777	—	5,823	—	—	5,823
顧客との契約から 生じる収益	12,779	3,415	1,873	110	18,178	2	—	18,181
外部顧客への売上高	12,779	3,415	1,873	110	18,178	2	—	18,181
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	121	△121	—
計	12,779	3,415	1,873	110	18,178	124	△121	18,181
セグメント利益又は 損失(△)	155	△131	△109	△180	△266	0	7	△258

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と同額となっております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、人材派遣事業等を含んでおります。

3 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)2	調整額 (注)3	合計
	VCCS	CTC	FC・MD	インキュ ベーション センター	計			
売上高								
日本	4,413	269	985	87	5,756	1	—	5,757
欧米	7,403	992	290	—	8,686	—	—	8,686
アジア	2,616	2,343	1,472	—	6,433	—	—	6,433
顧客との契約から 生じる収益	14,433	3,606	2,749	87	20,876	1	—	20,877
外部顧客への売上高	14,433	3,606	2,749	87	20,876	1	—	20,877
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	130	△130	—
計	14,433	3,606	2,749	87	20,876	131	△130	20,877
セグメント利益又は 損失(△)	653	378	225	△205	1,052	0	3	1,056

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と同額となっております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、人材派遣事業等を含んでおります。

3 セグメント間の内部売上高又は振替高の調整額は、セグメント間取引消去であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。

なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	959	984